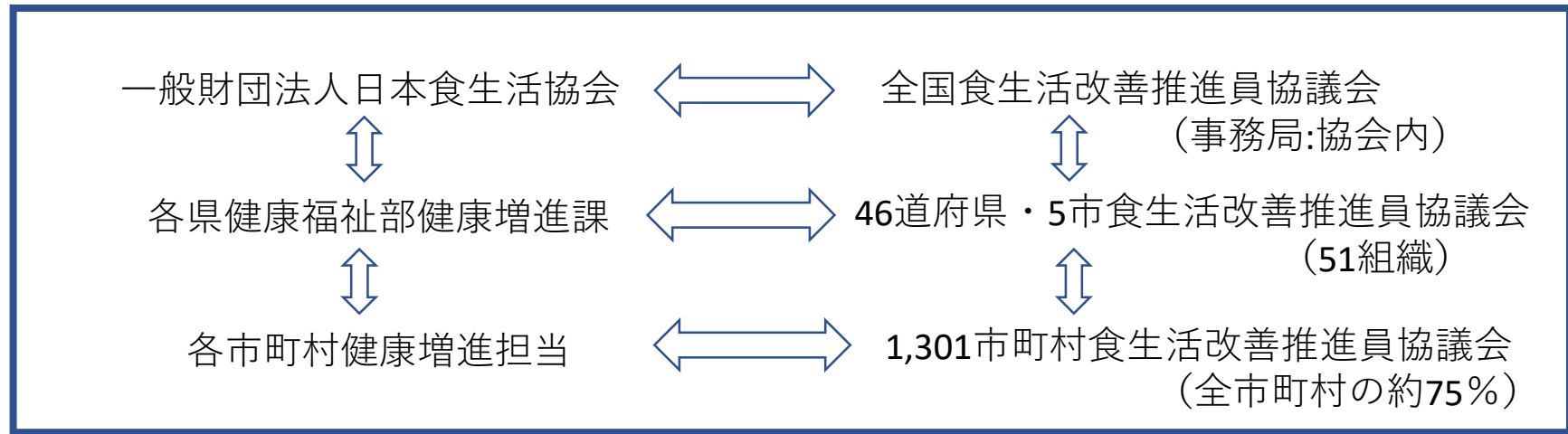


地域に根差した 食育活動50年

～食生活改善推進員の新しい活動様式とは～

一般財団法人 日本食生活協会

一般財団法人日本食生活協会が進める食育活動と食生活改善推進員



戦後、食料難の時代、当時の乳幼児死亡率の低下や貧血、脳卒中予防に向けて各地域で婦人たちが自主的にお隣さんお向かいさんへの訪問活動やご近所さんを集めて料理講習会を開催していきます。それを受けて、全国の保健所を中心に「栄養教室」が開設され、正しい知識と技術を学習し、自ら実践者となり意欲的に取り組むボランティアグループが誕生しました。その後、「食生活改善推進員」として、養成は行政、活動はボランティアで地域活動を広げ、全国組織化を実現したのが日本食生活協会です。設立当初より、全国の食生活改善推進員は、“**私達の健康は私達の手で**”をスローガンに地域住民の健康づくりのため啓発活動（ポピュレーションアプローチ）を進めて参りました。現在では、国民のニーズが高度化・多様化する中、ライフステージに応じた「生涯食育社会」を目指し活動を展開しています。

令和元年度、全国組織化50周年を迎え、心新たにサブスローガンとして「**のぼそう 健康寿命 つなごう郷土の食**」を発表し、ますます活力を持って地域に根差した健康づくり活動を進めて行くことを誓いました。

次世代を担う子どもたちへの食育

～幼少期からの正しい食習慣と共食のすすめ～



健康寿命の延伸をめざして

～若者世代に食の楽しさを・働き世代に見直す食を～



(若者世代 テキスト)



(働き世代 テキスト)



高齢者に「シニアカフェ」で居場所づくり

～低栄養・フレイル予防と閉じこもり対策～



家庭訪問で食育活動



(リーフレット)



(塩分測定器)



食育推進活動

～毎月19日は食育の日。家族そろって食事を楽しみましょう。～



(チラシ)



日本の食文化・郷土料理の継承

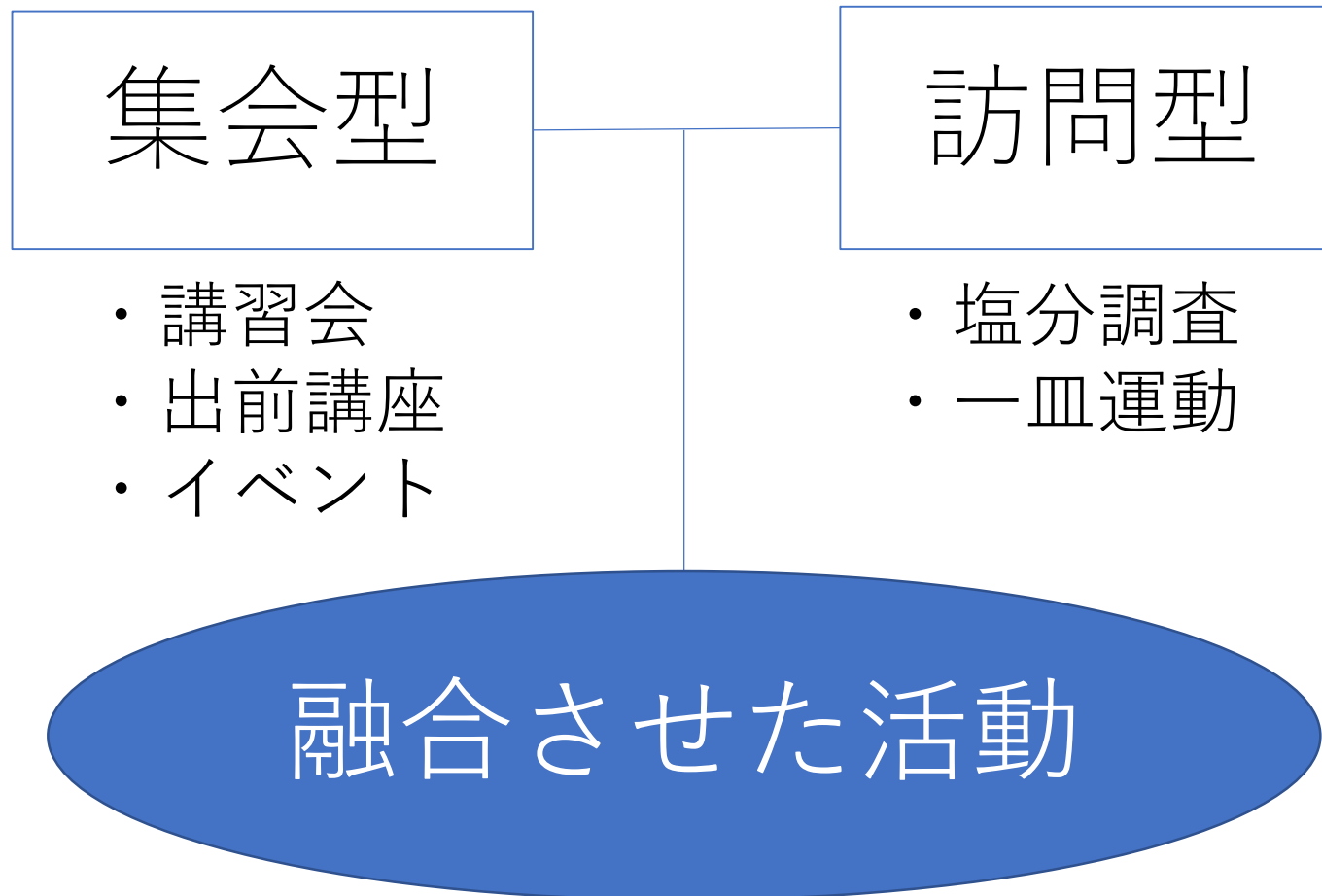
～つなごう郷土の食～



災害時における食事支援活動



これまでの活動様式



コロナ禍で見えたこと

- ・世代により感染症対策や意識が違う。情報の取り方も違う。
- ・地域格差も顕著になる。

◎自粛生活、テレワークの推進

- 1日3度の食事づくり→バランスの取れた食事
- 免疫力アップ→中食の活用→選ぶ力の学習

◎デジタル化の推進⇔高齢者の孤立

高齢化率（全国1,741市区町村中）

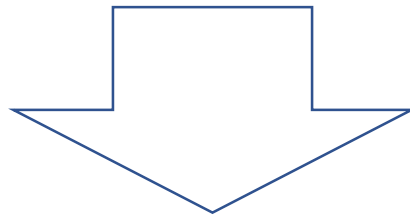
◎30%以上・・・994市区町村

◎40%以上・・・220市区町村（2015国勢調査）

* 全国平均28.1%（2019高齢社会白書）

コロナと共存しながらの
新しい活動様式とは・・・

「活動の原点にもどろう!!!」



「お隣さんお向かいさん活動」

第4次計画に向けて

住民を集めたアプローチができない今、
特に外出自粛で孤立する高齢者に対する
活動は・・・

「訪問活動」での
「声かけ」がカギとなる。

→食生活改善推進員を中心とした
地元を知る食育ボランティアが
ますます重要